



# 本校のコミュニティ・スクールについて



県立北茨城特別支援学校

# 1 学校運営協議会の

全体イメージ

# 共生社会の実現

## 学校

- ・子どもたちの学びや体験の充実
- ・諸課題の解決(教員が子どもと向き合う時間の確保等)

## 地域・保護者

- ・教育活動に参画する生きがい
- ・学校資源の有効活用等による地域課題の解決

芸術をとおして児童生徒の自己存在感を育て、誰にも優しいまちづくりを目指す

つながることで自己存在感を高め合う

- ・学校運営協議会委員がもつネットワークや立場を生かした地域資源の発掘や地域住民・団体・組織等をつなぐ協働体制づくり
- ・教育課程の編成の方針や熟議の結果を踏まえた地域学校協働活動の実施

**Act**

### 学校運営協議会

学校運営の基本方針の共有

どんな学校で  
子どもたちにどんな力を  
どのように身に付けさせたいか

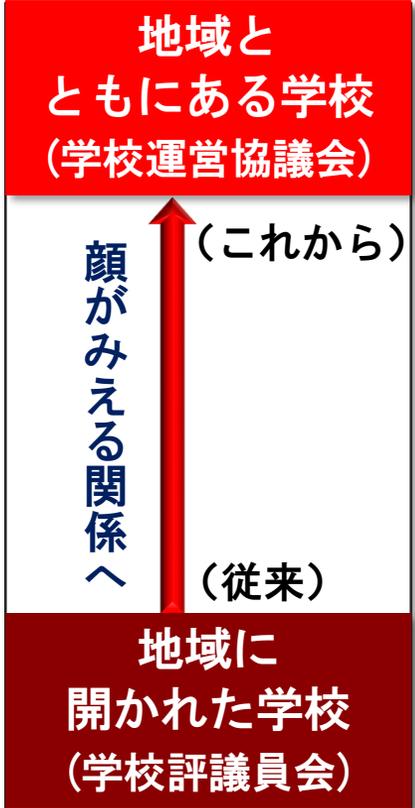
**【熟議】**

**Check**

### 地域学校協働活動

- ・「社会に開かれた教育課程」の実現(学習支援)
- ・学校や子どもの抱える課題の解決 など

**Do**



## 評価機能を活用したPDCAサイクルの構築

Plan

Act

それぞれの自己評価を踏まえ、学校運営協議会としての取組を評価し、次年度の学校運営に生かす。

Do

Check

### 【評価例】

#### 地域

- 地域の物的・人的資源を生かし、学校の基本方針や目標達成に向けた取組が実践できたか。  
(学校運営協議会)
- 学校の教育活動に対して必要な助言・支援等ができたか。

#### 家庭

- 学校の方針や活動内容を理解し、その実施状況を子どもと共有できたか。

#### 学校

- 設定した目標の達成に向けて、地域の力を生かした教育活動や授業を展開できたか。
- 保護者や地域住民と積極的に対話し、協働による取組ができたか。

#### 児童生徒

- 友達や教師だけでなく、多くの保護者や地域の方々とかかわることができたか。(自己存在感の実感)

## 2 テーマ及び設定理由

# 学校運営協議会のテーマ

**「芸術をとおして**

**児童生徒の自己存在感を育て、**

**誰にも優しいまちづくりを目指す」**

# なぜ 芸術なのか

【参考資料】

「子供の内面や生活を『豊かにする』

図画工作/美術科の授業づくりについて」

茨城大学教育学部 新井 英靖

身体的・感覚的に楽しめる（情動的知覚を働かせる）芸術科目〔図工美術・体育・音楽〕は子どもの内面や生活を豊かにする。

【豊かな生活とは】 ➡ 【社会とのつながりがある生活】

➡ 【つながる人や場があることが安心感へ】

【没入して（身体的・感覚的に楽しんで）活動したもの】

➡ 【人に見せたい・うらやましい（社会とつながり）】

➡ 【自己の存在が確かなものになっていく】

## 北茨城市の取組

# 「芸術によるまちづくり」

- 「北茨城市」に岡倉天心が日本美術院を創設
- 横山大観など多くの美術家を生んだ地

- 芸術があらゆるもののハブとなるよう「人」と「芸術」が共存共栄する持続可能な社会を目指す。

- 廃校の学校を整備し、ギャラリーや芸術家のシェアオフィスにしている。

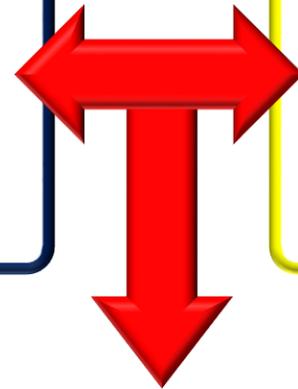
芸術をキーワードに地域と課題を共有

学 校

自己存在感の育成  
を目指した教育

地域(北茨城市)

芸術による  
まちづくりの推進



「誰にも優しいまちづくり」  
共生社会の実現